

ATP ふき取り検査を活用した内視鏡洗浄の質向上の取り組み ～洗浄後の清浄度確認、洗浄手順の構築、衛生意識の高揚など多面的な効果～



医療編

神戸大学医学部附属病院 光学医療診療部

吉村 兼氏

神戸大学医学部附属病院光学医療診療部では、使用した内視鏡の洗浄後の清浄度確認のツールとして、ATP ふき取り検査を活用している。内視鏡の洗浄では、ガイドラインに沿った洗浄作業を実施していても、ガイドラインの解釈が担当者によって異なる場合がある。また、目視で合格・不合格を判断する場合、どうしても判断基準が個人の主観に委ねられてしまうのが現実である。

そこで、同院では洗浄作業を行ったその場で、簡便・迅速に清浄度が「見える化」できる ATP 検査を活用している。現在、同院ではスコープを洗浄消毒装置から取り出すタイミングで ATP 検査を実施（基準値は 100RLU）。また、「供給される水の RLU 値を、洗浄後の目標値にする」という考え方から、水の検査も行っている（検査結果が 100RLU を超えた時には培養検査も実施する）。

また、同院の吉村兼氏は ATP 検査導入の効果について、洗浄作業の質向上だけでなく、スタッフの衛生意識の高揚にもつながったと語っている。